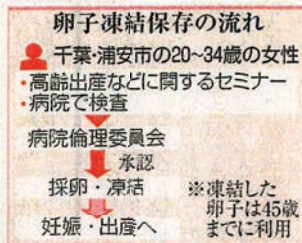


女性4人卵子凍結承認

千葉・浦安市と順天堂大研究 公費助成で初

千葉県浦安市が少子化対策として順天堂大浦安病院と共同で進める卵子の凍結保存研究で、10日に開かれた同病院の倫理委員会が女性4人の卵子凍結を承認したことが12日、関係者への取材で分かった。健康な女性が将来の妊娠に備える卵



子凍結の是非は妊娠率や健康へのリスクなどの点で学会でも見解が分かれる。「出産の先送り有助長する」との批判もある中、全国初の公費助成による卵子凍結が動き出した。

凍結保存はがん治療の副作用などによる不妊を避ける理由で始まったが、晩産化が進む中、加齢で妊娠し

納税者の理解必要

中塚幹也岡山大教授(生殖医学)の話 将来の妊娠に備えたい健康な女性の卵子を凍結保存することは、女性の生き方で選択肢の一つになり、卵子凍結への社会的な肯定感も徐々に増している。ただ、出産や育

にくくなる「卵子の老化」が知られるようになり、健康な女性も希望するケースが出てきた。一部医療機関で既に実施、大阪府の40代女性が凍結卵子で出産していたことが2月に判明した。市は2015年7月から

共同研究を開始。15年度から3年間で計9千万円の補助金を交付する。対象は市内に住む採卵時20~34歳の女性で、妊娠を目指すため凍結卵子を使う場合は、45歳までが原則。

今回承認された4人は病院主催セミナーで高齢出産のリスクについて説明を聞いた上で、倫理委の審査を受けた。同意書などの確認を経て採卵・凍結へと進む。

これまでに開かれた7回のセミナーには約40人が参加した。同委員会の審査を経て採卵・凍結へと進む。

市によると、採卵や凍結、保管にかかる費用は1人当たり50万~60万円程度。補助を受ければ自己負担額は注射や投薬など10万円程度になる。

スラム

卵子の凍結保存 排卵誘発剤などで卵巣を刺激し、採取した卵子を液体窒素の中で凍らせて保存する。解凍すれば体外受精が可能で、受精卵を子宮に戻して妊娠、出産を目指すことができる。卵子は細胞膜が弱く、精子や受精卵に比べて凍結保存が難しいとされてきたが、技術の改良で可能になった。加齢による「卵子の老化」で妊娠がしにくくなることを避けるため、健康な女性の間に凍結保存への関心が高まっている。ことし2月、独身時代に凍結した卵子で大阪府の40代女性が出産したことが判明。健康な女性の出産例が明らかになったのは国内初。

加しており、今後も共同研究の枠組みの下で卵子凍結が続く見通し。

市によると、採卵や凍結、保管にかかる費用は1人当たり50万~60万円程度。補助を受ければ自己負担額は注射や投薬など10万円程度になる。

卵子凍結をめくっては、日本産科婦人科学会の委員会が昨年2月までに、妊娠率が高くないなどとして、「推奨しない」との見解をまとめた。一方で、日本生殖医学会の指針では容認されており、賛否が分かっている。